

令和7年度山口県立大学 国際文化学部国際文化学科

学校推薦型選抜（地域貢献人材発掘枠）「小論文」問題用紙（持ち帰り）

【問】アニメ映画『アナと雪の女王』について記述した以下の文章を読み、次の問いに答えなさい。

アニメ映画として『トイ・ストーリー3』を抜く全世界歴代一位の興行収入を記録し、日本においても二〇一四年ナンバーワンヒット映画となった『アナと雪の女王』については、すでに多くの識者がさまざまな論考を重ねている。二女の母としても、海外作品とは思えないほどの盛り上がりを感じた。保育園、公園、プールの更衣室……子供をどこに連れて行っても「ありのまま」を合唱する園児～小学生の女の子たちを目にしたものだ。もちろんハロウィンとなれば女王エルサだらけ。足で床をどすんと踏み、周りを氷漬けにしようとするエルサなりきり女兒も大発生した。女の子がいっせいに一つの作品にのめりこみ、その真似事でもちきりになるのは、これまで『プリキュア』シリーズでしか見たことがなかった光景だ。ほとんどピンクが使われていないにも関わらず、ここまで女兒の支持を集めることは珍しい（しかしピンクの占める面積が少なかったからこそ、小中学生以上の女子も心置きなくのめりこむことができたのだろう）。

ピンクの少なさを補ってあまりあるくらい、女兒を惹き付ける要素は十分だ。音楽や美術の美しさ、ひっきりなしに繰り出される雪だるまオラフの体を張ったギャグ、エルサの力強さ。中でも大きいのが、恋よりも女の子同士の連帯に重きを置いた描写だろう。ディズニープリンセス映画は長年、「王子様待ちの他力本願」「女性の受動的な生き方」の象徴として、とかくやり玉にあげられてきた。（中略）

誰だって、自分が何者であるかを意識せずに生きていくのは難しい。大人であれば社会的な立場や周囲に認知された人格、もしくは「毛糸で深海生物が編める」などの特殊技能でアイデンティティを保つことができる。しかし幼い子供たちは大人のような自我を確立していないし、生物学的性差への理解すらあやふやだ（それが生涯変わらないものであるという認識もあやしい）。そこで「性別を象徴するすてきな何か」に自らを同化させ、同じ性別を有する者同士で連帯することで、アイデンティティ確立への第一歩を踏み出していく。プリンセスは、「女の子」のすてきを視覚的に体現した存在だ。（中略）

Be the good girl you always have to be

Conceal, don't feel,

don't let them know

主題歌「ありのまま」の歌詞原文には、氷を操る能力を隠すように親に言い聞かされて育った姉・エルサの孤独が描写されている。映画本編でも繰り返される、重要なメッセージだ。ここで書かれている抑圧は、エルサのような特殊能力の持ち主ではなくても、多くの女性が感じやすいものだ。（中略）

女性がこうした抑圧の中で社会に出ていくには、理想の女の子と思われようとするのをやめ、バッシングの声を無視するしかない。「That perfect girl is gone.」「I don't care what they're going to say. Let the storm rage on.」という歌詞は、抑圧をはねのけて自己を全解放した喜びに満ちている。映画本編でも、能力を隠しきれなくなったエルサは王国を飛び出して自ら建てた氷の宮殿に閉じこもる。おそらくここまでは、多くのフィクションで描かれてきた女性の解放劇だ。

しかし『アナと雪の女王』では、その先の女性の進む道を示している。彼女の能力をまるごと認め愛してくれる同性と信頼関係を築き、味方を増やし、自我を隠すのではなく他者の利になるようにコントロールすることで居場所を獲得する。これは<Facebook>社のCOOにのぼりつめた『リーン・イン』（二〇一三年）の著者シェリル・サンドバーグをはじめ、現代の成功した女性たちに共通するふるまいだ。成功した女性たちのロールモデルが、ディズニープリンセスの在り方も変えている。

出典：堀越英美『女の子は本当にピンクが好きなのか』、株式会社Pヴァイン、2016年、233頁-239頁。出題のため、原文を一部改変した。また、本文中の英語の日本語訳を省略した。

問1. 本文の内容を踏まえ、ディズニープリンセス像の変化について、200字以内で説明してください。

問2. 『アナと雪の女王』の中で、エルサが自分の力を受け入れ、「ありのままの自分」で生きることを決意する過程は、自己受容とアイデンティティの確立を象徴しているといえます。しかし、社会的には差別や偏見といった抑圧を克服できない人も少なくありません。あなた自身が自己実現と社会的抑圧の狭間に立たされたとき、どのように対応しますか。これまでに経験したこと、または今後行おうとしている具体的な事例を挙げて、400字以内で記述してください。

令和7年度山口県立大学 国際文化学部国際文化学科
学校推薦型選抜（地域貢献人材発掘枠）「小論文」出題意図

出典

堀越英美『女の子は本当にピンクが好きなのか』、株式会社Pヴァイン、2016年、233頁-239頁。出題のため、原文を一部改変した。また、本文中の英語の日本語訳を省略した。

出題意図

本書は、ピンク色が与える心理的な効果や文化的な背景について論じ、色が私たちの日常生活や思考にどのような影響を及ぼすかを考察している。出題のために引用された文章では、『アナと雪の女王』のエルサが新しいディズニープリンセスの象徴として紹介されており、社会の認識が変化していることが示されている。問では、文章中の「抑圧」をキーワードとして、社会的差別や偏見に目を向けさせるとともに、これから生じる課題をどのように解決していくべきかについて、自身の経験や目標を具体的に述べさせることを求めている。自己実現に向けた考えを巡らせることができるかどうかを測定することを目的としている。なお、問1では知識（文化を理解するために必要な知識）、技能（日本語の正しい運用能力・課題文を理解する能力）を問い、問2では思考力（具体例から解答に至るまでの一貫性）、判断力（適切な具体例の選択）を用いて、表現（説得力のある内容）できているかを問うものである。